

故大日向幻博士追悼号の刊行に際して

2008年11月22日、定年退職まで1年余りを残し忽焉として67歳で神様の御許に旅立たれた大日向幻博士を哀悼し、謹んで先生の御霊前に『故大日向幻博士追悼号』を捧げます。

大日向先生は、関西学院中学部、高等部を経て、1960年に関西学院大学神学部に入學し、その後、同大学大学院文学研究科英文学専攻の修士課程へと進み、1979年3月に同博士課程後期課程を終えられました。そして、同年4月から商学部専任講師に就任され、1983年に同助教授、1989年に同教授になり、その生涯の大半を関西学院との関わりの中で過ごしてこられました。その間、敬虔なクリスチャンとして、教育、研究さらには学内行政へと力の限りを尽くされ、その功績により名誉教授の称号を授与されておられます。

研究面では、詩を中心としたイギリス文学、特に17世紀の詩人ジョン・ミルトン研究の第一人者としてご活躍され、『失樂園の世界』、『第十八世紀中葉イギリスの詩人たち』、『イギリス諷刺詩』などの著書や数多くの学術論文を著しておられます。そして、病と闘いながら執筆された博士学位申請論文 *The World of Paradise Lost* で2007年に博士（言語コミュニケーション文化）の学位を取得されました。

教育面では、言語科目特に英語のコンビーナーや学生副主任、チャペル委員などを、また大学・学院においては学生副部長や言語教育研究センター副長、千刈セミナーハウス館長などを歴任され、厳しく、しかし常に大きな愛情をもって学生の指導にあたってこられました。

関西学院を心から愛してくださった先生のご退職を記念して出版される予定であった記念号が、このような「追悼号」となってしまったのは痛恨の極みです。

関西学院大学商学部として、ここに先生のご冥福をお祈り申し上げますと

ともに心からなる敬意と感謝をこめて、第57巻第2号を追悼号として発刊いたします。

この追悼号のためにご執筆およびご寄稿いただいた諸先生方、そして編集にご協力いただいた商学論究編集委員会の先生方に厚く御礼を申し上げます。

2009年9月

商学部長 瀬見 博